

義經ほり川夜うち〔書名〕 三六七・三六八
 義經物語〔書名〕 三三三・三四四
 義經行家都を出づ並義經始終の有様の事 六〇〇
 吉野ノ帝 二二二
 吉野の繪旨 一九五
 奥州雀原 三三六
 ヨス・ヨスル〔音曲〕 六〇〇
 米澤 一八三
 ヨミ・よみ物・ヨミ物・讀物・狀 一九九・六〇八
 ヨミフシ 六〇九
 狀同 六〇九
 ヨリ〔音曲〕 六〇九
 賴朝生捕らるゝ事附常盤落ちらるゝ事 五九九
 賴朝いふき落〔書名〕 三六七・三六八
 賴朝はまいて九げのかい〔書名〕 三六七・三六八
 賴朝謀叛の事 五九九

ら
 洛中 二五二・二六七
 關曲 八五
 變鏡調 八三・八七・八八・八九
 亂世の聲 三七
 り
 律院 一八二
 律師 二六七・二六八
 龍虎(リウコ)〔舞〕 六九
 龍生寺 一七三・一七四・二〇五・二七二・二八二
 流芳館 三四六
 領知方 五四・五五
 る
 流布本 三五五
 ろ
 朗詠 六九
 老中 二〇〇
 臘箋 三七八
 浪人分 二五二
 羅馬字本 一〇七
 鹿苑院 三七
 鹿苑日録 三七・一五八
 六條新殿 六六
 六堂 六九
 六波羅 三四・六〇〇
 六角堂 二七
 論義・ロンキ 六〇八

れ

靈岸邸 一五八
 冷泉院判官代 二六・三六・三五・三四
 連歌〔れん哥〕 七三
 戀慕〔曲〕 八五

わ
 和學講談所〔印文〕 三六八
 若狭國・若狭 一八〇・二九
 若狭盆 六三・一六七・一七九・三三三・三四四・三五八・三七〇
 和歌の道 一九二
 若宮八幡 六〇〇
 和歌山縣 二七四
 和漢三才圖會 四〇・四一
 脇 一〇三・一〇六・一三五・一三七・一四三
 脇大夫 三四三・三四六・三七〇・三〇八・四三三
 脇大夫 五三
 和田さかもり物語〔書名〕 三六七・三六八
 渡狀 三四九・三五三・三五四
 渡申幸若流舞本之事 三六六
 和田の義盛が酒盛の事 六一

もかしこも池淵となる 四二
 いつしかと神さひにけり香久山のむすきかもとに苔のむすまで 八五
 聲のうらおもてをいふをしらすして 八四
 生死をしらぬ音曲はうし 八四
 澤邊ナル螢ヲ袖ニ包ツゝ色垂衣ニモシヲタル羅ン 三三四
 まひの師弟のなかもこくすれば 四〇
 大夫も今はない頭なり 四〇
 我國ノ梅ノ花トハミタレトモ大宮人ハイカム云ラン・我國の梅の花とは見つれども大宮人はいかゞ云ふらん 三三七・三六五
 舞曲音聲分四聲 言言應律表其情
 白山通感示開合 光信圖眞決死生
 惠羅衣財細柳營 響流金鼓九華城
 忽聞唱拍相隨處 心正身脩報太平 二七六
 已求二師匠二習二伎々一 露拂松枝雜鶴
 述 和レ節舞兼二強レ節舞一 大頭幸若有二流々一 九七

詩歌

雨ふらば笠屋をきせよ大がしらこゝ

出文協承認あ 260276 號



昭和十八年十二月五日印刷
昭和十八年十二月十五日發行(一千五百部)

幸若舞曲集 序說本文共二冊

定價(幣)三十五圓
特別行爲 稅相當額 二圓
合計三十七圓

編者 笹野 堅

發行者 長谷川巳之吉

東京都麹町區三番町一

印刷者 堀内郁代

東京都牛込區山吹町一九八
印刷番號 東東三六一

發行人 株式會社 第一書房

電話九段(33)一四一五
東京都麹町區三番町一
會員登錄番號一六五〇八

日本出版配給株式會社
東京都神田區淡路町二ノ九

配給元

終